

児童精神科医学 ～発達障害を中心に～

2017/02/16 モーニングセミナー
研修報告 池内 寛昌

目次

- 児童精神科って？
- 発達障害とは
- 注意欠陥多動性障害(ADHD)
- 学習障害
- 広汎性発達障害
- 発達障害者支援法について



児童精神科って？①

- 2008年2月に厚生労働省は児童精神科を公式な標榜科として認めた。
- 日本児童精神医学会認定医は、平成27年度末時点で286名、2016年10月29日現在307名。
- 医療ニーズの急増に対応できる新たな医師の養成や医療機関の整備は、十分に追いついていないのが現状。

児童精神科って？②

■ 扱う疾患

- ADHDや自閉症スペクトラムなどの発達障害をはじめとし、若年発症の統合失調症や気分障害、摂食障害や強迫性障害などの神経症圏、精神遅滞、被虐待児やPTSD、不登校やチック、遺尿・遺糞など、子どもの心や行動の問題を広く扱う。

児童精神科って？③

■ 診断・治療

- 必要に応じて、発達検査、性格検査などの心理検査や頭部CT・MRI検査、脳波などを実施し、評価する。
- 精神療法、薬物療法、認知行動療法などを症状に応じ行う。
- 環境調整のため学校等との話し合いも行う。また、臨床心理士による心理カウンセリング、親カウンセリング、遊戯療法、ソーシャルスキルトレーニングも行う。

発達障害とは

- 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する**脳機能の障害**であってその症状が通常低年齢において発現するもの(発達障害者支援法より)
- 複数の障害が重なりあって現れることもあり、障害の程度や年齢(発達段階)、生活環境などで症状は違ってくる →「発達障害はスペクトラム(連続体)」
- 「発達凸凹」という言葉もある

◀ それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

注意欠陥多動性障害 AD/HD

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしてられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用（言語発達に比べて）

※このほか、トゥレット症候群や吃音（症）なども発達障害に含まれます。

注意欠陥・多動性障害(Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder:ADHD)

- 不注意、多動、衝動性を3症状とする発達障害
- 学童期での有病率は3～5%と高い
- 男女比は4～9:1と圧倒的に男児に多い
- ドーパミンやノルアドレナリンなどの神経伝達物質の調整障害と、衝動性をコントロールしている前頭葉の働きが十分でないのが病因と考えられている

ADHD評価スケール(ADHD-RS)

- 1.学校の勉強で、細かい所まで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする
- 2.手足をそわそわ動かしたり、着席していてももじもじしたりする
- 3.課題や遊びの活動で注意を集中し続けるのが難しい
- 4.授業中座っているべき時に席を離れてしまう
- 5.面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える
- 6.きちんとすべき時に、走り回ったりよじ登ったりする
- 7.指示に従わず、またやるべき仕事を最後までやり遂げない
- 8.遊びや余暇活動に大人しく参加できない
- 9.課題や活動を順序立ててできない
- 10.じっとしていない、または何かに駆り立てられるように活動する
- 11.精神的な努力を続けなければならない課題(宿題や学校での勉強)を避ける
- 12.過度にしゃべる
- 13.課題や活動に必要な物をなくす
- 14.質問が終わらないうちに出し抜けに答え始めてしまう
- 15.気が散りやすい
- 16.順番を待つのが難しい
- 17.日々の活動で忘れっぽい
- 18.他人を妨害したり邪魔をする

よくある誤解・偏見

- ①ADHDは、親のしつけや行儀の問題である
- ②誰でもこのような症状は持っている
- ③頭が悪い子供に起こる問題である
- ④単に意志が弱いだけである
- ⑤ADHDに対する薬物療法はリスクが高い

①ADHDは、親のしつけや行儀の問題である

- 脳の認知機能障害、特に実行機能の問題であることが様々な科学研究で示されている。
- 双生児研究では、遺伝が関与する割合は統合失調症よりも高いと報告されており、他の発達障害より高い。

②誰でもこのような特徴は持っている

- 不注意や多動性はどの子供にも多少なりともあるものだが、重要な点は「症状の頻度が(同年齢、同じ発達レベルの子供と比べて)高く」、「本人もしくは周囲が困るような家庭、学校生活上の不適応がある」ことである。

③頭が悪い子供に起こる問題である
→知能が高い低いに関わらず起こる。

④単に意志が弱いだけである
→意思決定や優先順位を決めるなどの判断
力に障害が生じており、脳の機能的な問題。

⑤ADHDに対する薬物療法はリスクが高い

- 日本人を対象とした治験で効果と有用性が示され、現在は2種類の薬が使用されている
- 不適切な使用方法で薬物依存状態に陥ったり、副作用で成長発達を阻害することを防ぐため、処方医および販売薬局は認可制で限定されている。

ADHDの治療

- まずは親にペアレント・トレーニングを、子供にはそれに基づいてSocial Skill Training(SST)を受けてもらう
- 不適応が長く続いている、セルフ・エスティームの低下が顕著、衝動性が強く他人を傷つける行動が顕著 etc→薬物治療(コンサータ、ストラテラ)
- 発達の問題なので経過とともに改善していくこともある

学習障害(Learning Disabilities:LD)

- 全般的な知的発達に遅れはないが、**読む、書く、計算**する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態
- 「勉強ができない」とイコールではない
- ADHDや高機能広汎性発達障害を併存している場合も多い
- 特別支援教育で個別に対応する
- 適切な支援を受けられないと、うつ病や不登校などの二次障害を発症する恐れがある

学習障害の対処例

- 覚え方や学び方を工夫する...クイズにする、漢字のパーツを分けてパズルを作るなど
- 環境的な配慮をする...プリントはゴシック文字に、文字の色を変えるなど
- 代替手段を使用する...タブレットの音声読み上げ機能を使う、スマホを使うなど



広汎性発達障害

(Pervasive Developmental Disorder:PDD)

- コミュニケーション能力や社会性に関連する脳の領域に関係する発達障害の総称。
- 自閉症、アスペルガー症候群の他、レット症候群、小児期崩壊性障害、特定不能の広汎性発達障害を含む。
- ADHDや学習障害などの症状を併せ持つことも多い。
- 発達の凸凹が「広汎」な領域にまたがり、人によりばらつきがある＝スペクトラム
- 最近では「自閉症スペクトラム障害(ASD)」と呼ぶことも。

広汎性発達障害

特定不能のその他の発達障害

自閉症

アスペルガー症候群

RETT症候群

小児期崩壊性障害

DSM-VIによる(八代まき)

自閉症

- 「言葉の発達の遅れ」「コミュニケーションの障害」「対人関係・社会性の障害」「パターン化した行動、こだわり」などの特徴をもつ障害。
- 自閉症スペクトラムと呼ばれることも

アスペルガー障害

- 明らかな言葉の発達や知能の遅れはないものの、**社会性の障害**や**こだわり**のために対人関係に問題(**コミュニケーションの障害**)が生じる発達障害
- 広汎性発達障害(PDD)の一つ

アスペルガー障害の特徴

- 言葉の問題

言葉の裏側に含まれている言外の意味を汲み取れない、比喩や冗談が通じない

- 社会性の問題

視線が合わない、誰が接しても同じような感じ、誰にでも預けられて手がかからない、友人を作れない

- こだわり

あるマークやある数字のついているものばかりを何百個も集めたり植物図鑑に載っている植物をすべて覚えている

オキシトシンとコミュニケーション障害

- オキシトシンには、対人関係で相手への信頼感を生み出し、コミュニケーション能力を高める働きがある。
- 親との愛着形成に関わっている
- 広汎性発達障害と診断された知的障害のない18～54歳の男性を対象に、1日2回オキシトシンをスプレーで鼻から吸入したところ、コミュニケーション能力の改善が認められた

発達障害者支援法(2005年)

- 発達障害者の自立及び社会参加に資するようその生活全般にわたる支援を図り、もってその福祉の増進に寄与することを目的とする。
 - 発達障害のある人をサポートするための法律であり、2005年に施行された
- 施行前に比べ「発達障害」という言葉の認知が飛躍的に広がった

発達障害者支援法の改正(2016年5月)

1. 発達障害者の支援は「**社会的障壁**」を除去するために行う
2. 乳幼児期から高齢期まで**切れ目のない支援**。教育・福祉・医療・労働などが緊密に**連携**
3. 司法手続きで意思疎通の手段を確保
4. 国及び都道府県は**就労の定着**を支援
5. 教育現場において**個別支援**企画、指導計画の作成を推進
6. 支援センターの増設
7. 都道府県及び政令市に関係機関による協議会を設置

最後に

「発達障害はcommon diseaseである」

ご清聴
ありがとうございました

